

**中国政府の日本に派遣する国費留学生に対する予備教育の実態調査**  
**—1979～1984年東北師範大学における赴日学部留学生に対する教育を中心に—**  
**日本語教育史研究会報告**

慶應義塾大学 王雪萍  
2006年9月16日

**1. 学部留学生の派遣決定**

- 鄧小平発言1978年6月23日

「外国語の基礎の良い高校卒業生から外国の大学に進学できる学生を選んで派遣する。今年3,4千人で、来年は1万人前後である。これは発展のスピードを加速する方法である」

・教育部は1978年7月11日に党中央に「派遣留学生の増加に関する報告」を提出した学部留学生派遣の決定

**2. 留学予備生の選抜**

- 1978年、学部留学生の選抜が開始
- 1978年の高校卒業生と大学一年生から525名の留学予備生が選ばれた
- 選抜方法：全国大学入学試験の成績と大学の一学期目の成績（理科の成績に依拠し、英語成績は参考）
- 政治条件はあまり重視されない選抜
- イギリス、フランス、ドイツ、ベルギー、日本の大学に派遣し、理工系の学部に進学させる（ニュージーランドも少数）

**3. 予備教育の準備**

- 1979年に教育部は六ヶ所の外国語大学に出国留学生訓練部を設置することを決定した。

北京第二外国語学院、上海外国語学院、広州外国語学院、大連外国語学院、西安外国語学院、四川外国語学院

- 1979年、吉林師範大学（後で東北師範大学に改称）は一定人数の日本語訓練の任務を担当し、上海同済大学は一定人数の西ドイツ語訓練任務を担当した。

赴日、赴西ドイツ学部留学生担当

- 1980年には、教育部はさらに北京語言学院に出国留学生訓練部を設立することを決定した。

#### 4. 日本政府の協力

- 1978年7月、中国政府は駐北京日本国大使館を通じて、日本政府に国費留学生派遣の受入れの協力を要請した。
- 1978年10月、中国から教育部の雍文濤副部長を団長とする教育代表団が来日し、学部生については中国において日本語及び基礎教科の予備教育を実施してから留学させるために必要な教員を派遣して欲しいと要請した。
- 外務省、文部省、国際交流基金の協力で、中国留学生の受入れと予備教育の実施を協力した。

#### 5. 赴日本国留学生教育予備学校の設立

- 日本語の予備教育機関としては、東北師範大学と大連外国語学院の二つの場所が基地として選ばれた。
- 東北師範大学は学部生や大学院生などの学位取得を目的とする学生の教育を中心に担当し、一部の訪問学者の教育も1985年から担当した。
- 大連外国語大学は建設当初から訪問学者の日本語教育を中心に行い、一部の大学院生の教育も担当してきた。

#### 6. 長春赴日本国留学生予備学校での教育協力

- 日本政府は、他の国の国費留学生の教育経験を生かし、東京外国語大学付属日本語学校の例を参考にしてカリキュラム編成に協力するとともに、これに必要な日本語、数学、理科等の教員19名を派遣する。
- 教材として東京外国語大学付属日本語学校の日本語教材、及び日本の高等学校教科書を提供する。
- 日本人教師の航空運賃、荷物の超過料金(30キロまで)、滞在費、宿舍費、通勤費、医療費、家族を呼び寄せる旅費及び滞在費と任期あけの国内旅行費のすべての費用は中国側が負担する。

## 7. 長春赴日予備学校第1期予備生教育

- 1979年3月21日、開校式
- 1980年2月8日、卒業式

## 8. 予備学校入学前の日本語学習状況

表 予備学校入学前の日本語学習状況

|     |            | 度数  | パーセント | 有効パーセント | 累積パーセント |
|-----|------------|-----|-------|---------|---------|
| 有効  | 勉強した経験がない  | 83  | 83.0  | 91.2    | 91.2    |
|     | ラジオ講座で勉強した | 4   | 4.0   | 4.4     | 95.6    |
|     | 高校で勉強した    | 1   | 1.0   | 1.1     | 96.7    |
|     | 小学校から勉強した  | 1   | 1.0   | 1.1     | 97.8    |
|     | 大学で勉強した    | 1   | 1.0   | 1.1     | 98.9    |
|     | 自分で独学した    | 1   | 1.0   | 1.1     | 100.0   |
|     | 合計         | 91  | 91.0  | 100.0   |         |
| 欠損値 | システム欠損値    | 9   | 9.0   |         |         |
| 合計  |            | 100 | 100.0 |         |         |

## 9. 長春赴日予備学校第1期予備生教育

- 予備教育は前期と後期に分けて行った。
- 前期は日本語を中心に行い、日本語以外に週二回の英語授業も行われた。日本語の授業は週に30時間で、日本人教師が18時間、中国人教師が12時間を担当した。
- 後期は日本語・英語以外に、日本で大学に進学するための数学、物理、化学、生物、社会の授業が開設され、英語以外の授業はすべて日本人教師と中国人教師が協力して行っていた。  
日本人教師主導の予備教育

## 10. 学部生の予備教育の成果の比較

- 赴日留学予備学校  
1979年3月～1984年2月(382名留学予備生)  
5期学部留学予備生のうち、3名が病気で途中退学した以外、379名全員日本留学試験に合格した。(なかに文科系の学生が50名いる)

- ・ 赴ドイツ留学予備学校  
1979年3月～1982年5月(310名留学予備生)  
第1期 8名の留学資格が取り消された  
第2期 4名の留学資格が取り消された  
第3期 17名の留学資格が取り消され(内文科系13名)、4名は大学入学試験に合格できなかった

## 11. 学部留学生の日本派遣

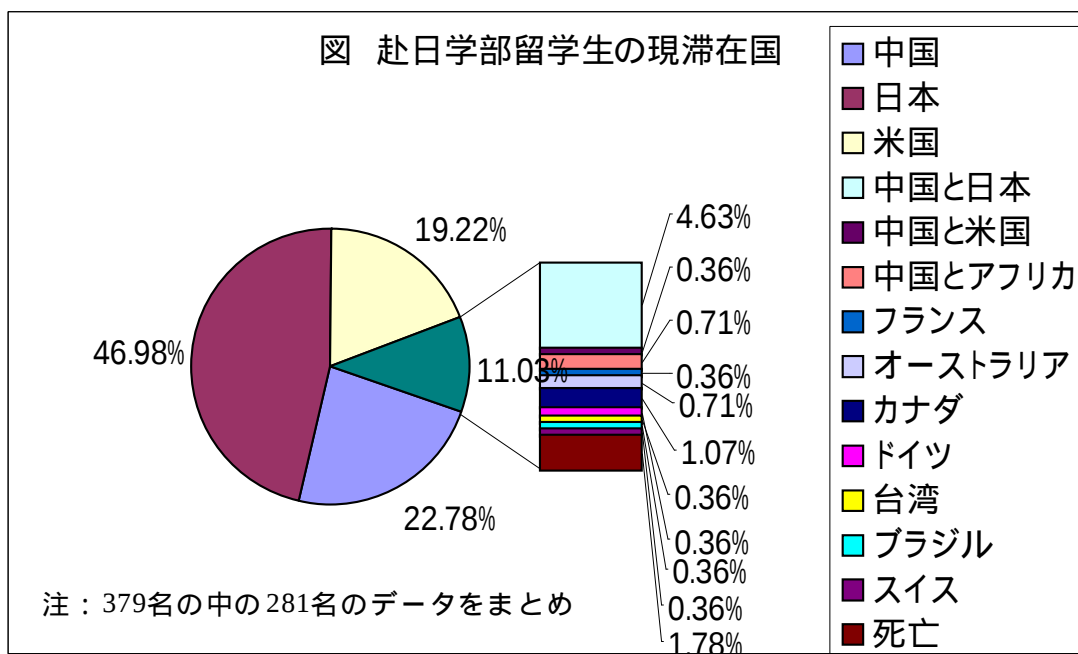
- ・ 1973年日中国交正常化直後、日本語学習を目的
- ・ 1979年大量派遣再開
- ・ 1980年学部留学生の大量派遣が開始  
1980 - 84年:379名

| 表 中国赴日本国留学生新規受入数の推移 |       |      |        |       |      |
|---------------------|-------|------|--------|-------|------|
| (単位 人)              |       |      |        |       |      |
|                     | 学部留学生 | 進修生  | 大学院留学生 | 在学博士  | 進学博士 |
| 1979                |       | 111  |        |       |      |
| 1980                | 97    | 208  |        |       |      |
| 1981                | 102   | 175  |        |       |      |
| 1982                | 100   | 197  | 148    |       |      |
| 1983                | 50    | 115  | 165    |       |      |
| 1984                | 30    | 41   | 144    |       |      |
| 1985                |       | 129  | 161    |       |      |
| 1986                |       | 135  | 131    |       |      |
| 1987                |       | 105  | 110    | 15    |      |
| 1988                |       | 87   | 79     |       |      |
| 1989                |       | 115  | 50     |       |      |
| 1990                |       | 89   |        | 6(30) |      |
| 1991                |       |      |        | (38)  | (39) |
| 1992                |       |      |        | (40)  | (39) |
| 1993                |       |      |        | (40)  | (40) |
| 1994                |       |      |        | (40)  | (40) |
| 1995                |       |      |        | (40)  | (40) |
| 1996                |       |      |        | (40)  | (40) |
| 1997                |       |      |        | (44)  | (40) |
| 1998                |       |      |        | (52)  | (40) |
| 1999                |       |      |        | (56)  | (40) |
| 2000                |       |      |        | (59)  | (40) |
| 累計                  | 379   | 1507 | 988    | 21    |      |

注1)出所:文部科学省の提供により作成された。

注2) ( )は、国費留学生として受け入れた数であり、累計に含まない。

## 12. 赴日学部留学生の現状



## 13. 調査期間と調査状況

- 2002年4月～2005年3月

表 インタビューした学部留学生の現滞在国

|    |       | 度数  | パーセント | 有効パーセント | 累積パーセント |
|----|-------|-----|-------|---------|---------|
| 有効 | 中国    | 35  | 35.0  | 35.0    | 35.0    |
|    | 日本    | 20  | 20.0  | 20.0    | 55.0    |
|    | 米国    | 33  | 33.0  | 33.0    | 88.0    |
|    | 中国と日本 | 11  | 11.0  | 11.0    | 99.0    |
|    | 中国と米国 | 1   | 1.0   | 1.0     | 100.0   |
|    | 合計    | 100 | 100.0 | 100.0   |         |

## 14. 予備教育による予備生の日本イメージへの影響

- 日本への留学を通知される前に日本の物を触れる程度の調査(100名の留学生の中で89名から回答が得られた)
  - 「何もない」31.5%
  - 「映画や新聞ニュース、小説などのメディアのみ見た」52.8%
  - 「映画も見て、電気製品も使用した」6.7%
- 91%の学部留学生は留学する前に、日本の状況について接する機会がとてまなかつた

ほとんどの学部留学生は予備学校に行く前に日本人と会ったことがない

## 15. 予備教育による予備生の日本イメージへの影響

図 予備学校に入学する前の日本イメージ

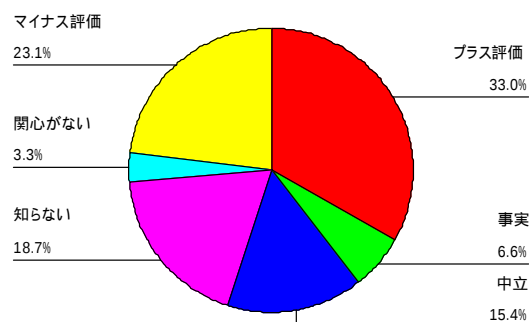
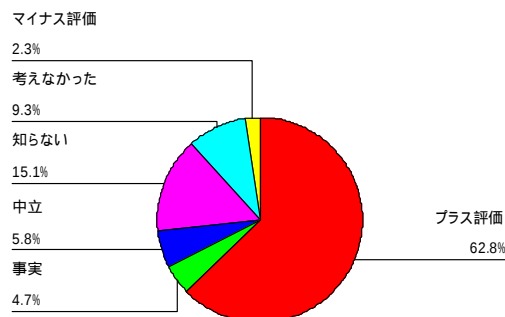


図 予備学校で勉強した後の日本イメージ



## 16. 予備生の日本人講師に対する印象

- ・「講師はとても良い。本当のことを言うと、私は当時の日本人講師はより人間らしいと思う。なぜかという、笑うべき時に笑い、泣くべき時に、泣いてはいないが、嬉しくない表情をする。厳しく要求すべき時には厳しい。我が国の講師は皆精神的な圧力を負っている、笑いたいときに十分に笑えず、冗談を言うべき時には冗談を言うが、我が国の教師はどこでも冗談が言えるわけでもないから、私は日本人講

師から彼らの人間らしさを強く感じ、とても印象深かった」

- ・「当時、日本人講師のことを十分に理解できなかったが、日本人を見てから、日本人は私が想像した日本人と全然違った。虐殺をやった凶悪な人種とは違い、彼らは残虐でないだけでなく、同情心まで持っていることに驚いた」
- ・「その日授業の始め、日本人講師が教室に入ってから、私たちに今日は7月7日で、なんの日なのかと聞かれた。その日は西暦の7月7日なので、我々は当然「七七事変」の盧溝橋事変のことを思い出し、クラスの学生は皆黙り込んで、誰も言い出せない状態であった。その後、一人の学生にチョークを渡され、彼は「盧溝橋事変」と書いた。その先生が考えたのは七夕であったが、我々は七夕が旧暦の祝日だと思っていたので、だれも七夕のことを考えなかった。双方の考えはミスマッチであった。その時先生は非常に気まずくなって、「盧溝橋事変」の字を指して、我々はこの話題を話すのではなく、七夕のことを話そうと言った。日本人講師は七夕が中国からの習慣で、日中文化交流の話をしたかったから、7月7日の話を始めたが、想像しなかったのは、日本はもともとの旧暦を西暦に変更してしまったことであった。」

## 17. 結論

- ・学部留学生の予備教育は中国政府の要請の下で、日中両国の協力を通じて行われた
- ・日本人講師を中心に行った教育によって日本語を1年間でマスターし、ほとんどの予備生は無事に日本の大学に合格した
- ・日本人講師の熱心な教育によって、予備生たちの日本イメージの向上に貢献したが、普通の日本人と違いが認識されなかったこともあり、その後の日本イメージの悪化にもつながった